

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<研究課題名>心房細動カテーテルアブレーションにおけるモダリティ、治療戦略の傾向と臨床成績
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 循環器内科 (研究責任者) 奥村 恭男
<研究期間> 承認日 ~ 令和6 (西暦 2024) 年 3月 31日
<研究の目的と意義> 心房細動 (AF) に対するカテーテルアブレーションは、薬物療法よりも洞調律を維持するために有効であるエビデンスが確立し、一般的な治療法となってきた。肺静脈隔離術 (PVI) は、発作性心房細動に対する標準的な治療戦略である。過去 10 年における持続性心房細動に対するカテーテルアブレーションでは PVI に加えてリモデリングした左房の基質に対するカテーテルアブレーションが注目されている。また、アブレーションのための 3D マッピングとアブレーション技術が開発され、それらの技術は向上してきている。接触力とアブレーション時間積分値 (FTI)、それに出力を考慮したアブレーションインデックス (AI) とリージョンサイズインデックス (LSI) が開発された。3D マッピングシステムとそれらを組み合わせることによりモダリティが向上してきており、有効な治療が可能となってきた。そこで、過去 6 年間のモダリティや治療戦略の変化を調査し、それらが心房細動の再発や予後に関与しているかを統計的に示し、考察することが本研究の目的である。これらを調査することにより、心房細動の治療戦略・モダリティの変化とそれによる臨床的成果の変化を解釈するとともに心房細動の治療を再考することが本研究の意義である。
<利用する試料・情報の項目> 術前後の検査データ (血液検査、心電図、心臓超音波検査、ホルター心電図、CT 画像)、カテーテルアブレーション中のデータ (放射線透視量、手術時間、3次元マッピングシステムにより算出されるアブレーション情報、心内心電図)、術前後の診療記録。
<対象となる方> 西暦2014年1月1日から西暦2019年12月31日の期間に日本大学医学部附属板橋病院循環器内科で、心房細動に対する電気生理学的検査及びカテーテルアブレーションを受けられた患者を対象とする。
<研究の方法> 研究対象者のアブレーション施行前後の患者情報及び上記の各種情報を、カルテを遡って収集し専用のエクセルに入力し、探索的に解析を行います。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院 (東京都板橋区大谷口上町 30-1) 循環器内科 氏名: 平田 萌 電話: 03-3972-8111 内線: (医局) 2410 (PHS) 8939